

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【伊都振興局】小学校でかきの渋抜き体験を実施

令和5年10月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1-2
1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト】 ～下津町農業士会「みかん出前授業」を開催～	
2. 農業体験学習会で稲刈り体験を実施	
3. 和歌山地方農村青年交流会を開催 ～極甘みかん収穫体験と地元キャンプ場での交流会～	
4. 小学校でかきの出前授業を実施	
II 那賀振興局	3
1. 小学校で地場産農産物の出前授業を実施	
2. 那賀地方生活研究グループ連絡協議会がリーダー研修会を開催	
III 伊都振興局	4
1. 小学校でかきの渋抜き体験を実施	
2. 「梅干し贈呈式」及び「梅と梅干しのお話説明会」の実施	
IV 有田振興局	5
1. 有田川町4Hクラブが温州みかんのドローン防除実装見学会を実施	
2. 御霊小学校で温州みかんの出前授業を開催	
V 日高振興局	6
1. 由良町農業士会が「ゆら早生」を学校に配布	
2. クビアカツヤカミキリ悉皆調査を実施	
VI 西牟婁振興局	7
1. 重点プロジェクト【持続的なうめ産地の発展】 ～摘心樹のせん定＋カットバック研修を実施～	
2. 西牟婁農業プロジェクト協議会 活動中間報告会を開催	
VII 東牟婁振興局	8
1. クビアカツヤカミキリ侵入警戒に係る調査を実施	
VIII 農林大学校	9
1. 県内の各試験場で研修を実施	

I 海草振興局

1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト】

～下津町農業士会「みかん出前授業」を開催～

下津町農業士会（会長：岡室孝明氏）は 将来を担う子どもたちに下津みかん産地の現状や課題、農業の魅力を学んでもらうことを目的として、毎年、地元の下津第二中学校で出前授業を行っている。本年は10月13日、2年生37名を対象に開催した。

授業では萩平普及指導員から「下津蔵出しみかんシステム」が日本農業遺産に認定されていることなど全国に誇る産地であることを説明。農業士会の岡室会長と児玉副会長からは、農業の魅力、みかん栽培のやりがいを伝えた。

その後、生徒はグループに分かれ、①みかんをもっと食べてもらうには？②農業を職業にする人を増やすには？③下津みかんを有名にするには？をテーマにグループワークを行った。「みかんを作った料理を開発する」、「世界にみかんを発信する」などのアイデアが出された。「みかん産地に住んでいても知らないことがたくさんあった」との感想も多く、生徒たちが地元の産業を再認識するよい機会となった。



岡室会長による説明

2. 農業体験学習会で稲刈り体験を実施

農業水産振興課では小学生を対象に、農産物の生産現場について関心や理解を深め、食べ物を大切にする心を育てることを目的に、農業体験学習会を実施している。10月17日に和歌山市の貴志正幸氏の水田において、和歌山大学教育学部附属小学校の5年生68名を対象に実施した。

初めに貴志氏から鎌の使い方、刈り取った稲の縛り方について説明を受けた後、稲刈りを体験した。はじめは刈り取り作業に苦労していた児童たちも、貴志氏の指導を受けながら作業を進めるうちに徐々に慣れ、稲刈りを楽しんでいた。

体験後、児童から貴志氏に「手刈りから機械になってどれくらい楽になったか」、「米作りで大変なことはあるか」などの質問があった。今後も子供たちに農業の原点を体験する場を設けていく。



農業体験学習会の様子

3. 和歌山地方農村青年交流会を開催

～極甘みかん収穫体験と地元キャンプ場での交流会～

10月28日、和歌山地方農村青年交流促進協議会（会長：中元成浩氏）及び和歌山地方4Hクラブ連絡協議会（会長：山本康平氏）主催で和歌山地方農村青年交流会が開催された。この交流会は、地域農産物や伝統文化に関する体験交流を行うことにより、地域の魅力や農業・農村生活に関する理解と関心を深めるとともに、地域農業の後継者と消費者の環を生み出すことを目的として、毎年開催している。

当日は、県内外から女性5名、男性5名が参加した。Collegare（海南市下津町内キャンプ場）でトーク会を開催し、自分の農業についての話などで交流を深めた後、みかん園地にて完熟ゆら早生の収穫体験を行った。みかんの採り方や美味しいみかんの見分け方などを説明しつつ、収穫作業を体験してもらった。また、下津地域の産地の特徴を説明し、農業や地域への興味を深めてもらう機会となった。

参加者からは、「みかんの収穫が初めてだったので、楽しかった」などの感想が寄せられた。また、農業や農業者に対するイメージについて、参加前は「普段関わりがないから特にイメージはなかった」が、参加後「農業の大変さや楽しさを知った」という声も寄せられた。



トーク会の様子



収穫体験

4. 小学校でかきの出前授業を実施

県特産のかきについてより知ってもらうため、10月3日に海南市立黒江小学校の5年生、4日に和歌山市立楠見小学校の2年生を対象に出前授業を行った。

岩橋普及指導員がかきの収穫量や品種、1年間の農作業、栄養や食べ方などの説明をし、児童はクイズや問いかけにも積極的に参加してくれた。

また、甘柿・渋柿の試食も行い、甘柿のおいしさを知ってもらうとともに、渋柿の渋味も体感してもらった。初めて渋柿を食べた児童が多く、「口がざらざらする」などの感想があった。

授業の最後には学んだことや体験したことを保護者に話して一緒にかきを食べたいと伝えた。出前授業を通じて子供だけでなく大人へも県農産物を知ってもらえる機会が増えることを期待する。



楠見小学校での授業

Ⅱ 那賀振興局

1. 小学校で地場産農産物の出前授業を実施

10月17日、那賀振興局は紀の川市農業振興課、河南学校給食センター、紀の川市環境保全型農業グループと連携し、紀の川市立池田小学校6年生62名を対象に、地場産農産物の出前授業を実施した。

授業では、市・振興局職員が「紀の川市の農業の概要」を説明した後、紀の川市環境保全型農業グループの小林元氏からは「農家の一日について」、高橋範行氏からは「天敵を利用した農業について」と題し、それぞれお話をいただいた。

児童からの「農家をしていて、一番大変な作業は何ですか」との問いに、講師からそれぞれ「収穫作業は大変ですが、同時に嬉しい作業です」、「台風などの災害や大雨、暑さに困ることはあるが、基本は楽しんでやっているの、大変と思う作業はない」と答えがあった。

本授業を受けた後、児童達は地場産農産物を使った給食レシピを考案し、採用レシピは1月の給食で提供される。その際、改めて講師と児童の交流会を開催する予定にしている。



農家の生活について説明（小林講師）



栽培時の工夫について説明（高橋講師）

2. 那賀地方生活研究グループ連絡協議会がリーダー研修会を開催

10月19日、那賀地方生活研究グループ連絡協議会ではリーダー研修会を開催し、会員17名及び市・振興局担当者が出席した。

第1部の寄せ植え体験では、講師にガーデンアドバイザーの福田正人氏を迎え、定植時は基本的に根を崩さずに植えるといったコツを教えていただきながら、参加者は6種類の花苗を使った寄せ植えに挑戦した。

第2部の意見交換会では、各市協議会及び地域グループの活動について発表を行い、コロナ以降久しぶりに再開した取組や、コロナ禍でも継続した事例などについて紹介があった。参加者にとってはお互いの活動を知る良い機会となり、会員同士交流を深めることができた。



寄せ植え体験



意見交換会

Ⅲ 伊都振興局

1. 小学校でかきの渋抜き体験を実施

伊都地方特産のかきの美味しさを知ることにより、地域農業への理解を深めるとともに、地産地消の推進を図るため、伊都地方農業振興協議会（伊都管内の市町、J A、農業共済、振興局で構成）では、平成 13 年度から小学生を対象にかきの体験学習を行っている。10 月はかきのお話しとかきの渋抜き体験を、管内及び大阪府守口市、和泉市の 8 校の小学校において、410 名の児童を対象に実施した。

かきのお話しでは、和歌山県が日本一のかき産地であることや、かき農家の作業、加工・流通等について、楽しめるようにクイズも交えて説明し、渋抜き体験では、脱渋処理の作業を実演し、その後児童が同様の作業を体験した。

11 月からは、渋抜き体験にかえて吊るしがき体験を実施する。



かきのお話し



かきの渋抜き

2. 「梅干し贈呈式」及び「梅と梅干しのお話説明会」の実施

10 月 6 日、橋本市立清水小学校において 1～6 年生の児童 54 名を対象に梅干しの授業を行った。

本事業は、県特産品である「梅干し」の歴史、生産方法や機能性などを理解し、より一層身近なものとして梅干しを食する習慣を養い、食への関心を持つことを目的として、和歌山県、和歌山県漬物組合連合会、和歌山県教育委員会主催で実施している。

はじめに、農業水産振興課の山崎技師が本県での梅の生産量や梅の種類に関する話を行った。

その後、和歌山県漬物組合連合会のイクタ食品株式会社取締役生田氏及び株式会社梅樹園取締役生田氏による梅干しの贈呈式を行い、フリップを用いて梅の花や梅干しの歴史、効能などに関するクイズを実施した。生徒からは一番値段が高い梅干しは何かなどの質問があがった。

今後とも地産地消を目的とした食育活動を行っていく。



梅干し贈呈式の様子



梅干しクイズの様子

IV 有田振興局

1. 有田川町4Hクラブが温州みかんのドローン防除実装見学会を実施

10月31日に有田川町4Hクラブ（会長：宮本 遼 氏）が、有田川町の温州みかん園においてドローン防除見学会を実施し、クラブ員や行政関係者、地元マスコミが参加した。

同クラブでは昨年度より、株式会社オプティムにドローンによる防除を委託し、急傾斜地が多い温州みかん園での防除効果の検討や作業の省力化に取り組んでいる。これまで2年間にわたり散布試験を実施し防除効果を確認してきた。

見学会では、宮本会長よりこれまでの取り組みと株式会社オプティムよりドローン防除のシステムについて説明があり、その後、傾斜園で散布の実演を行った。

クラブ員からは「半日以上かかる作業が1時間で終わる」といった期待が寄せられた。



宮本会長による説明



傾斜園でのドローン散布の実演

2. 御霊小学校で温州みかんの出前授業を開催

有田川町立御霊小学校では、地元産業への理解を深めるため、総合学習の授業で年間を通した温州みかんの栽培を行っている。10月5日、3年生（61名）を対象に、地域農業士である玉置泰伸氏を講師として収穫体験を実施した。

収穫後、古田普及指導員が栄養成分について説明し、自分で収穫した果実を試食した。糖度測定も指導したことから、お互い食べ比べをして糖度の違いを実感している児童もいた。

「体験前は近所の農家さんの作業の大変さがわからなかったが、6月の摘果や今回の収穫を自分で体験するととても大変だということを実感した」、「おいしいみかんを作るには農家さんのたくさんの苦労があるのだと知った」等の感想が述べられた。



玉置氏による収穫作業の説明



普及指導員によるみかんの栄養成分についての授業

V 日高振興局

1. 由良町農業士会が「ゆら早生」を学校に配布

10月18日、由良町農業士会（会長：濱野一宏氏）は、食育・地産地消活動の一環として、町内全保育園・小中学校に、由良町で発見された「ゆら早生」果実14ケースと農業士会が作成した「ゆら早生」の特徴を説明したパンフレットを配布した。

配布時には贈呈式を行い、会長からは「この機会に由良町で生まれたゆら早生について理解を深めてほしい」と話しがあった。



由良小学校での贈呈式と配布されたパンフレット

2. クビアカツヤカミキリ悉皆調査を実施

農業水産振興課では、本年5月に御坊市のさくらでクビアカツヤカミキリの被害樹を管内で初めて確認して以来、被害拡大防止に向け、関係機関と協力しながら被害樹の伐採指導や悉皆調査、啓発パンフレットの全戸配布などを行ってきた。

今般、幼虫の活動がほぼ停止する10月下旬に、今まで調査をしてきた御坊市、美浜町、日高町、由良町内を再度悉皆調査したところ、新たに御坊市でうめ2樹の被害を確認した。

これで10月末現在の被害樹はうめ、さくら等53本となった。

なお、日高川町は11月9日に調査を行う。



対策会議と調査

VI 西牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【持続的なうめ産地の発展】 ～摘心樹のせん定+カットバック研修を実施～

うめ「南高」の摘心栽培実証園（田辺市下三栖）にて、10月23日にJA紀南営農指導員と農業水産振興課職員計7名が出席し、せん定カットバック研修を実施した。

この技術は、増収効果のある摘心処理と省力効果のあるカットバック処理を組み合わせた低樹高安定生産を図るもので、今回は指導者を対象に行った。

竹中普及指導員から、①結果層の高さは20～30cmに切りそろえ、来年春のバリカン処理をやりやすくし、着果過多を防ぐ。②下垂した枝は、果実が大玉にならないため切り落とす。③カットバック処理は、樹高2.5m程度とするとといったポイントについて、説明・実演し、参加者も意見交換しながらせん定作業を行い、理解を深めた。

今後は当課とJA指導員が中心となり、生産者の研修会等を通じて、当技術の普及を推進していく。



せん定の実演

2. 西牟婁農業プロジェクト協議会 活動中間報告会を開催

西牟婁地方の農業および農村地域の発展を図るため、JA（紀南、紀州、みくまの）、市町（田辺市、白浜町、上富田町、すさみ町、串本町）、農業者団体代表、振興局農業水産振興課（西牟婁、東牟婁）で組織する当協議会の活動中間報告会を10月17日に西牟婁振興局で開催した。

果樹（うめ、温州みかん、すもも）の高品質安定生産実証やクビアカツヤカミキリ被害調査、野菜・花き（いちご、ストック、ほおずき等）の施設内環境制御や省力化技術実証等の生産対策、県内外でのうめの出前授業や加工体験実施等の消費対策、研修会等の担い手対策に関する実績について、各担当者から報告した。

出席者からは、「星秀」の受粉樹としての具体的な活用方法やクビアカツヤカミキリの防除対策、うめの消費拡大PRについて質問や意見が出たことから、今後も当協議会員が連携して、これらの課題に取り組んでいくことで意見がまとまった。



上半期の活動を協議

Ⅶ 東牟婁振興局

1. クビアカツヤカミキリ侵入警戒に係る調査を実施

県内では、もも・うめ・すももなど主にバラ科の樹木を加害する特定外来生物クビアカツヤカミキリによる被害が拡大している。

農業水産振興課では、このクビアカツヤカミキリが東牟婁地域に侵入していないか確認するため、10月4日から24日に、20園地（うめ583樹、さくら117樹）で、樹に本虫によるフラス（虫の排泄物と木くずがまざったもの）の発生有無を確認する調査を行った。

今回の調査でフラスの発生は確認されなかったが、引き続き調査を実施することにより早期発見に努めるとともに、チラシ等による啓発活動を行っていく。



調査の様子

Ⅷ 農林大学校

1. 県内の各試験場で研修を実施

10月2日から10月6日にかけて果樹試験場、かき・もも研究所、農業試験場の協力のもと、本校学生がそれぞれの試験場で研修に励んだ。

果樹試験場では、農林大学校では見られない多様な品種の柑橘類が栽培されており品質調査を行うことで特性が明らかになることに、関心を持った学生もいた。

かき・もも研究所ではかきの育種におけるDNAマーカーを用いた甘・渋柿の判定、せん定技術やかきに発生する病害虫について学んだ。

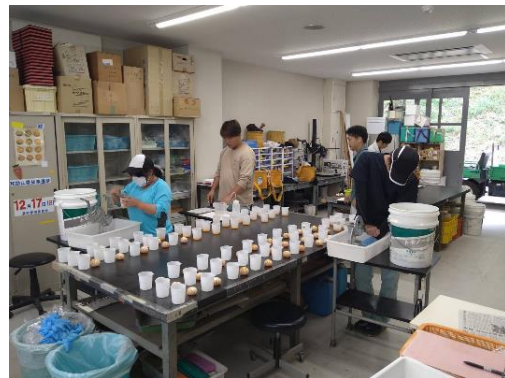
他にはもも害虫のクワシロカイガラムシに対する薬剤感受性の試験やクビアカツヤカミキリ防除対策に関する試験などは、初めての実習であり、有意義な学びとなった。

農業試験場で研修を受けた学生らはにんにくの品質向上に向けた取組や水稻の調査などが農林大学校で触れることが無かった品目だったので特に興味を持ったようだった。

1年生はこれから卒業論文の課題について、考えていく時期であり、本研修で学んだことが大いに参考となった様子が見受けられた。



カラーチャートを用いた果実の収穫



収穫した果実の品質調査

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489